

認知症サポーター養成講座受講者向けメッセージビデオについて ～丹野智文さんからのメッセージ～

丹野智文さんにご協力いただき、認知症サポーター養成講座の受講者向けのメッセージビデオを作成した。

当事者である丹野さんが自らの言葉でメッセージを語る姿を広く発信することで、認知症に関する社会の見方を変えるきっかけとなり、多くの認知症の人の希望となることを期待し、市内地域包括支援センターに DVD を配布したほか、You Tube にアップロードし、誰でも視聴できるよう配信している。

①一般向けロングバージョン

<https://www.youtube.com/watch?v=AW4P4Zr0THo>

②一般向けショートバージョン

<https://www.youtube.com/watch?v=69pdpTyeTVs>

③小中学校向けバージョン

https://www.youtube.com/watch?v=WpJNEA_Er-A



一般向けショートバージョン メッセージ文

こんにちは。丹野智文です。
私は39歳の時に若年性アルツハイマー型認知症と診断されましたが、私が選んだのは、認知症を悔やむのではなく認知症と共に生きるという道です。

現在、妻と娘2人の4人で暮らしています。
病気が判明して半年ほどですべてを子供達に話しました。今は病気の話をすることも多くなり、一緒に認知症の番組を見ることもできています。

私はもともと営業の仕事をしていましたが、会社の理解のもと仕事を続けられ、今は事務の仕事をしています。

私はアルツハイマー病になりましたが、家族と過ごす時間が増えたこと、認知症の人と家族の会の人々と知り合えたこと、たくさんの方の優しさに触れあえたこと、悪いことばかりではありません。

また、新たに合唱団で歌うことや講演活動など、人生が大きく変わりました。
人生は認知症になっても新しく作ることができるのです。

そこで、本日研修を受けられている皆さんにお伝えしたいことがあります。

認知症の当事者にとって、周りの環境が一番大切だと感じています。
人と人とのつながりの環境が大切で、それが私を笑顔にさせてくれたのだと思います。
最初の頃は周りの人達は介護者で、お世話する人などと思っていました。
その後、一緒に出かけたりしていると何かが違うと思うようになり、出会って来た人達すべてがパートナーだと思えるようになりました。
特に、現在一緒に活動している人達は介護者だとは思わないし、サポートをしてもらいながら何かを一緒にするパートナーだと実感しています。
出来ないことをサポートしてもらいながら出来る事を一緒にするという考えを持っていれば、みんなパートナーとなるのです。

今までは認知症というと何も出来なくなるのでやってあげなければと思っている人が多かったと思います。
介護が必要なのは本当に重度になってからだと思います。

出来ることを奪わないで下さい。そして時間はかかるかもしれませんが待ってあげて下さい。一回出来なくても怒らずに、次は出来るかもと信じてあげて下さい。

そして出来た時には当事者は自信を持ちます。その事が気持ちを安定させ、進行を遅らせるのだと思います。

失敗しても怒られない環境が認知症当事者には必要なのです。
危険なことなどがあたら注意は必要ですが、話し方や言い方によって当事者のとらえ方が変わります。
ちょっとした言い方でも当事者は怒られていると感じてしまいます。
当事者は失敗したことわかっています。わかっている、なぜ失敗したのかが分からないのです。

先程お話をしたようにパートナーだと思うと対等な立場なので出来ることは一緒にやろうと思えるようになると思います。
これは当事者だけではなく医者、介護士、地域包括の方々、家族、すべての人に言えることなのです。

認知症は、決して恥ずかしい病気ではありません。誰でもなりえる、ただの病気です。病気によってできなくなることもありますが、出来る事もたくさんあります。
これからますます増えてくる認知症、みなさんもいつなるかわかりません。
ぜひ、みんなで支えあう社会をつくりましょう。
私も認知症ですが、同じ認知症の仲間を支えていきたいと思っています

どうもありがとうございました。

